

## インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ : 報告数は56件(前月比 0.3、前年同月比 1.1)でした。1月に大きな流行をみましたが、2月以降は急速に減少し例年と比べても少数で推移しています。6月は今年最も少ない件数でした。

## 小児科定点

(全体傾向) 報告数は4,465件(前月比 1.0、前年同月比 1.2)で、前月とほぼ同等で、前年同月をやや上回った状況です。最も件数の多い感染性胃腸炎は減少していますが、手足口病の増加により全体として前月と同等の結果となっています。その他ヘルパンギーナ、A群溶連菌、流行性耳下腺炎の増加を認めます。また件数は少ないものの伝染性紅斑の増加が目立ち注目されます。

## (疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 報告数は4件(前月比 0.2、前年同月比—)でした。1月から毎月減少傾向を認め、例年並みの推移を示しています。6月はこれまでに最も少ない件数でした。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数は68件(前月比 0.9、前年同月比 0.7)でした。多少の増減はありますがほぼ横ばい状態の推移を示しており、例年より低いレベルです。本来夏季にピークを認めますので今後の動向に注意が必要です。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数は304件(前月比 1.3、前年同月比 0.7)でした。全国的に今年は例年になく高いレベルで推移しているようですが、熊本県では今のところ各月、例年を下回っている状況です。3月以降減少していましたが6月は増加に転じました。菊池、天草地区からの報告が多いようです。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数は1,850件(前月比 0.8、前年同月比 1.4)でした。2月にいったん減少しましたが3、4月と再び増加を認め、5、6月は減少しています。ただし例年と比べて減少の幅が小さく、前年同月と比較してもまだ多い状態です。
5. 水痘 : 報告数は59件(前月比 0.8、前年同月比 0.3)でした。1月から毎月例年に比べて低い件数で推移しており、5、6月はさらなる減少傾向がみられます。全国的にも1月から過去にない低レベルで推移しておりワクチン効果と思われます。
6. 手足口病 : 報告数1,206件(前月比 1.6、前年同月比 3.8)でした。昨年は夏季のピークが見られず、また今年は立ち上がり4月からと早かったため、6月は前月比および前年同月比で大きく上回りました。7月のピークに向かって急峻な増加傾向を示す例年のパターンと考えられます。菊池、八代、水俣地区からの報告が多いようです。
7. 伝染性紅斑 : 報告数は71件(前月比 2.0、前年同月比 14.2)でした。4月から増加し、5月は横ばい状態でしたが、6月は倍増しています。過去2年間は毎月10件以下と低いレベルでしたので今後の動向に要注意です。とくに妊婦さんへの感染には注意が必要です。人吉、菊池、宇城地区からの報告が若干多いようです。
8. 突発性発疹症 : 報告数は182件(前月比 0.9、前年同月比 1.0)でした。年間を通じてほぼ例年並みの推移を示しています。
9. 百日咳 : 報告数は7件(前月比 3.5、前年同月比 1.0)でした。今年最も多い件数で、年齢は0~5

ヶ月 1件、1歳台 3件、2歳、3歳台各1件、10～14歳1件でした。地域は菊池地区3件、水俣地区3件、八代地区1件でした。

10. ヘルパンギーナ : 報告数は324件(前月比 2.7、前年同月比 0.5)でした。6月に入り急な増加がみられます。昨年、一昨年よりは少ないですがこれから夏季のピークに向かって急増する例年並みの推移を示しています。人吉、天草、八代、宇城、菊池地区からの報告が多いようです。
11. 流行性耳下腺炎 : 報告数は119件(前月比 1.9、前年同月比 2.8)でした。今年は過去2年と比べて1月から毎月高いレベルで推移しており注意が必要です。6月は5月から倍増しています。とくに人吉地区からの報告が目立ちます。有明地区も多いようです。

## 眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありませんでした。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数は87件(前月比 1.0、前年同月 1.2)とわずかに増加しています。地区別では熊本86件、有明1件の報告です。年齢別では20～49歳にピークがありますが、1～2歳を中心とした乳幼児、50歳以上の年齢層にも、注意が必要です。

## STD定点

1. 性器クラミジア感染症: 報告数は55件(前月比 0.8、前年比 0.8)で、前月比、前年比ともに減少しています。男女別は、男性25件、女性30件で、女性に多く見られます。年齢は、男性、15～59歳に見られます。女性は15～69歳に見られますが、15～44歳に多く見られます。地域別は、熊本が37件、次いで有明6件、菊池、御船各4件、宇城3件、八代1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症:  
報告数は17件(前月比 1.5、前年比1.1)で、前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性7件、女性10件でした。年齢は、男性は40～49歳に見られ、女性は20～69歳と幅広く見られます。地域別は、熊本が11件、次いで菊池3件、八代2件、宇城1件でした。
3. 尖圭コンジローマ : 報告数は3件(前月比 1.0、前年比 0.6)で、前月比は同数で、前年比は減少しています。男女別は、男性1件、女性2件でした。年齢は、男性は50～54歳に見られ、女性は20～34歳にみられます。地域別は、熊本3件でした。
4. 淋菌感染症 : 報告数は19件(前月比 0.8、前年比 0.7)で前月比、前年比ともに減少しています。男女別は、男性14件、女性5件でした。年齢は、男性は20～49歳に見られ、女性は15～29歳にみられます。地域別は、熊本13件、次いで宇城3件、御船、八代、有明各1件でした。

## 基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 : 16件(前月比 0.6、前年比 0.7)の報告がありました。熊本6件、山鹿2件、八代3件、水俣2件、人吉2件、有明1件でした。年齢は0歳:2件、5~9歳:1件、35~39歳:1件、65~69歳:2件、70歳以上:10件でした。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 : 3件(前月比 0.4、前年比 0.5)の報告がありました。熊本3件でした。年齢は1~4歳:1件、45~49歳:1件、70歳以上:1件でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症 : 1件(前月比 -、前年比 -)の報告がありました。阿蘇1件で、年齢は65~69歳:1件でした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎 : 報告はありませんでした。(前月比 -、前年比 -)
2. 無菌性髄膜炎 : 4件(前月比 2.0、前年比 1.3)の報告がありました。熊本3件、有明1件で、年齢は1~4歳:1件、25~29歳:1件、30~34歳:1件、50~54歳:1件でした。
3. マイコプラズマ肺炎: 9件(前月比 2.2、前年比 1.3)の報告がありました。熊本5件、阿蘇2件、人吉2件でした。年齢は1~4歳:1件、5~9歳:1件、10~14歳:1件、20~24歳:2件、30~34歳:2件、60~64歳:1件、70歳以上:1件でした。
4. 感染性胃腸炎(ロタウイルス)  
:1件(前月比 0.3、前年比 0.1)の報告がありました。人吉1件で、年齢は1~4歳:1件でした。

## 届け出対象感染症

- 1類感染症 : 報告はありませんでした。
- 2類感染症 : 結核 : 39件
- 3類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 : 10件
- 4類感染症 : レジオネラ症 : 5件
- 5類感染症 : アメーバ赤痢 : 2件
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症 : 1件
- 侵襲性肺炎球菌感染症 : 1件
- ウイルス性肝炎 : 1件
- 後天性免疫不全症候群 : 1件
- 薬剤耐性アシネトバクター感染症 : 1件